

## メディアイベントの健康表象に関する研究 ～健康優良児言説の変遷～

Changing media representations of health:  
Discourses on the “model child” (kenkô yûryôji) contest, 1930-1996

古賀 篤 (Atsushi Koga)

指導：リー・トンプソン

### 【研究目的】

厚生労働省(旧厚生省)は2000年に健康日本21を開始し、2002年には「健康増進法」を成立させ、国民が健康づくりに励むことを国民の責務とした。こうした社会状況の中で現代人は「健康は大切である」、「健康は増進されるべきものである」という健康意識を抱いているとする調査結果があり、現代は健康が自明化している社会であると考えられる。しかしこのような社会風潮に対して批判的な立場をとる研究が存在する。北澤は「健康とは社会的圧力にもろいものであり、国家や社会の関心、あるいは時代を支配する思想によって修正されやすいもの」と指摘し(北澤、2000)、有山は健康という「見えない集合的意識が顕在化してくる機会の一つ」もしくは「意識的にあるいは無意識的に健康であることを強制する力のメカニズム」として「メディアイベント」の存在を挙げている(有山、1998)。

こうした先行研究を受けて現代人が持つ「健康は大切である」、「健康は増進されるべきものである」といった自明化された健康概念は決して普遍的な概念ではなく、「国家や社会の関心、時代を支配する思想」によって変容する概念であり、その意識はメディアイベントによって顕在化され、メディアイベントが健康であること(理想の健康)を意識的あるいは無意識的に強制する力として作用していると考えた。そこで本研究では朝日新聞社によって1930年から1996年の間主催され、全国から「日本一の健康優良児」と「日本一の健康優良学校」を選出して表彰を行う「全日本健康優良児童表彰事業」(以下健康優良児表彰)を取り上げ、「理想の健康」や「健康問題」がどのように表象され、時代の変遷によっていかに変化していったかを分析することで現代へと繋がる「理想の健康」概念の構築過程の一側面を明らかにしようと考えた。

### 【研究方法】

本研究では戦前の言説に関しては先行研究を基にして健康の語られ方を明らかにし、戦後の言説に関しては「朝日新聞縮刷版」を利用して「健康優良児日本一」(以下健康優良児言説)と「健康優良学校日本一」(以下健康優良学校言説)の分析をおこなった。

### 【結果】

戦後の健康優良児言説は「不変言説」と「時代変容言説」に分類することができた。「不変言説」では①「優れた体格

②「運動・スポーツ万能」③「学業成績優秀」④「厚い人望」⑤「食欲旺盛」⑥「インテリ志向」の6つの言説で語られ、これらの要素をすべて併せ持つ子供が「日本の児童の健康の典型」として戦前から連続性を持って語られていた。「時代変容言説」では①「遺伝的健康」②「積極的健康づくり」③「テレビ自制」④「肥満防止」⑤「塾通いの自制」の5つの言説で語られ、時代が要請する「望ましい健全さ」に敏感に反応していたことがうかがえた。つまり健康優良児言説では「理想の健康の定型」が連続性をもって表象される一方で「国家や社会の関心、時代を支配する思想」によって理想の健康を巧みに変容させていたと考えられる。

「健康優良学校」言説では、「健康問題」・「理想の健康」の描かれ方の変遷と、言説の変容に影響を与えたと考えられる社会背景を明らかにした。1950年代は当時「三大学校病」といわれていた「結核」「寄生虫」「トラコーマ」が健康問題として語られており、感染症の予防と衛生管理の徹底が「理想の健康づくり」として語られていた。1960年代では高度経済成長期の中で「全国平均と比較される児童の体格」が問題視され、健康問題の範囲を拡大させていったことがうかがえた。1970年代になると60年代に頻りに語られていた「体格」は問題視されなくなり、代わって「体力の低下」言説が登場する。その背景には高度経済成長の終焉期という時代の中で、東京オリンピックの惨敗を契機とした国家主導の体力づくり運動の高まりを指摘した。1980年代になると「飽食時代」や「運動不足」といった豊かな時代が生む健康問題として「肥満」や「ひ弱さ」が語られる一方で「自主性」と「ゆとり」が求められるようになった新しい社会風潮の中で「心の健康」が「身体の健康」とともに重要な要素となっていった。1990年代になると「生活習慣」が主な問題として語られ、健康づくりへの視点が「生活習慣」に向けられ、個人の生活習慣へ眼差しがより強調されるようになっていった。

### 【まとめ】

本研究においてメディアイベントとしての性質をもつ「健康優良児表彰」で語られていた健康は、戦前から連続性をもって「理想の健康の定型」を示してきた一方で、「国家や社会の関心、時代を支配する思想」が要請する理想的な健全さを、時代の変遷に合わせて巧みに変容させてきたということを明らかにすることができた。